

コロナ禍における大学生の人的交流や健康に対する考え方

笹原妃佐子¹⁾, 田地 豪¹⁾, 西村 瑠美²⁾
前原 朝子³⁾, 二川 浩樹¹⁾

新型コロナウイルスの感染拡大が学生生活に及ぼした変化から、コロナ禍における大学生の人的交流や健康に対する考え方を検討することを目的とする。2020年度広島大学歯学部歯学科1～6年生318名の学生を対象に、2020年11月から2021年2月の間にコロナ感染拡大による生活変化に関する質問紙調査を実施した。対面の会話は人との交流の要因であるものの、非対面での交流は要因ではなかった。人との交流と外出頻度との相関は高かった。健康と相関が認められたのは、衛生面に気をつけることだけであり、食事、運動、睡眠との相関は認められなかった。人との交流は、対面によるものが基本であり、非対面の交流は対面での交流を補うものではないと考えられた。外出は対面による会話を行うために必要なものであろう。健康とは衛生面に気をつけることであり、食事、運動や睡眠は省みられなかった。

キーワード：COVID-19, 大学生, 生活変化

University students' attitudes toward human interaction and health in the Corona Disaster.

Hisako Sasahara¹⁾, Tsuyoshi Taji¹⁾, Rumi Nishimura²⁾,
Tomoko Maehara³⁾, Hiroki Nikawa¹⁾

This study aimed to examine university students' attitudes toward human interaction and health by clarifying changes in their lives caused by the COVID-19 epidemic. A questionnaire survey on life changes due to the COVID-19 epidemic was conducted among 318 first- to sixth-year students in the Department of Dentistry, Faculty of Dentistry, Hiroshima University between November 2020 and February 2021. "Interaction with others" was influenced by changes in "face-to-face conversations", but not by "non-face-to-face interactions" such as online interaction. "Interaction with others" correlated highly with "the frequency of going out". "Health conscious" correlated only with "taking care of hygiene" but not with "diet", "exercise", or "sleep". The basic interaction with people might be face to face, and non-personal interactions had not evolved to the point where they complement face-to-face interactions. Going out was considered necessary for face-to-face conversations. "Health conscious" meant "taking care of hygiene" and not "diet", "exercise", and "sleep".

Key words: COVID-19, University students, Changes in the lives

1) 大学院医系科学研究科 口腔生物工学
2) 大学院医系科学研究科 口腔保健疫学
3) 大学院医系科学研究科 公衆口腔保健学

1) Department of Oral Biology & Engineering, Graduate School Biomedical and Health Sciences
2) Department of Oral Epidemiology, Graduate School of Biomedical and Health Sciences
3) Department of Public Oral Health, Graduate School of Biomedical and Health Sciences

I. はじめに

2020年1月15日、国内で初めて新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）による感染が確認された。ワクチンや政府の対策、一人一人の心がけにもかかわらず、わが国の感染者数・重症者数は増減し、現在も世界中で猛威を振るいつづけている。

この調査を行った2020年11月から2021年2月の間、広島県では感染拡大防止に向けて酒類提供飲食店の酒類提供時間の短縮や営業時間の短縮など対策が数多く行われた¹⁾。広島大学においても同様に、2020年4月からオンライン授業を取り入れることや、家計が急変した大学生の授業料を免除すること、支援金制度を設けるなど対策が行われてきた²⁾。

その中で2020年7月、「#大学生の日常も大切だ」というハッシュタグが Twitter 上で話題となり、ニュース番組でも「オンライン授業は辛い」という大学生の声や、生活が困窮しているという事態が報道されるようになった。

そこで、以前の報告では³⁾、広島大学歯学部歯学科学学生を対象に、COVID-19流行による学生生活の変化を公表した。本調査では、ほぼ同じデータを用い、新型コロナウイルス感染症流行下における大学生の人的交流、健康等に対する考え方を検討した。

II. 方法

1. 調査対象者・期間

2020年度広島大学歯学部歯学科1～6年生のうち、留学生や休学中の学生を除いた全320人（1年生52名、2年生54名、3年生53名、4年生58名、5年生52名、6年生51名）を対象に2020年11月から2021年2月の間に質問紙調査を行った。

2. データ収集方法

ほとんどの授業が対面ではなくオンラインで行われていたため、対面での試験の際に試験問題と質問紙及び調査内容の説明用紙を共に配布し、試験終了後に回収した。未成年の学生は、試験が実

施される1～2週間前に質問紙と調査内容の説明用紙を配布し、保護者の了解を得よう学生に依頼した。保護者の了解が得られた学生から、対面での試験の際に質問紙を回収した。調査への同意は、質問紙の提出をもって得たものとした。

質問紙は①対象者の属性、②広島において COVID-19流行がほとんどみられなかった2020年3月以前と調査時点との生活の変化を問う質問内容で構成された。②は、人との交流、金銭面、時間の使い方、食生活、外出、健康面についての全40項目で構成し、「大変増加」から「大変減少」のまでの7段階で回答された。質問項目の詳細は図1に示すとおりである。質問紙は10分程度で回答できる内容で、無記名式とした。

3. 倫理的配慮

本研究は広島大学人を対象とする医学系研究（疫学）倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号：第 E-2302号）。調査を実施する前に、調査対象に対して回答は自由意志によるものであり回答しないことによる不利益はないこと、調査は無記名で行い個人が特定されないことを文書で説明した。

4. 分析方法

Microsoft Excel 2013（日本マイクロソフト社製）と、SPSS version 22（日本IBM社製）を用い、データの集計・分析を行った。それぞれの質問項目への回答が増加もしくは減少の方向に偏っているかの検定には、中央値を「無変化」として、Wilcoxon の1標本検定をした。つぎに、7段階の回答を順位化した後、重相関分析により、[a2：人との交流]、[d5：生活する上でお金に困ること]、[b1：自分の好きなことに使う時間]、[b3：不規則な生活をしていると思うこと] の4質問項目の要因分析を行った。[d1：外出頻度]と[g2：健康について意識すること]についても、同様の要因分析を試みたが、因果の方向が不明である質問項目が多く、他の質問項目との Spearman の順位相関係数を求めることとした。

コロナ禍における大学生の人的交流や健康に対する考え方

●下記項目について、解答してください。
 戸籍上の性別 男性 女性 学年 () 学年 年齢 () 歳

●以下の文章読んで、**2020年3月以前と、現在**を比較して当てはまるものを**1つ**選んで、**数字に○印**をつけて下さい

	大変 増加	かなり 増加	多少 増加	無変化	多少 減少	かなり 減少	大変 減少
a1) 家族との対面による会話	1	2	3	4	5	6	7
2) 人との交流	1	2	3	4	5	6	7
3) 1食の量	1	2	3	4	5	6	7
4) 支出(出費)	1	2	3	4	5	6	7
5) 体重	1	2	3	4	5	6	7
b1) 自分の好きなことに使う時間	1	2	3	4	5	6	7
2) テレビの視聴時間	1	2	3	4	5	6	7
3) 不規則な生活をしていると思うこと	1	2	3	4	5	6	7
4) 家族との非対面による会話	1	2	3	4	5	6	7
5) 自炊する頻度	1	2	3	4	5	6	7
c1) 自宅で飲酒する頻度	1	2	3	4	5	6	7
2) 1日に吸うたばこの量	1	2	3	4	5	6	7
3) 運動時間	1	2	3	4	5	6	7
4) ネット上での買い物の消費金額	1	2	3	4	5	6	7
5) ニュース番組を見る時間	1	2	3	4	5	6	7
d1) 外出頻度	1	2	3	4	5	6	7
2) 友人・知人との対面による会話	1	2	3	4	5	6	7
3) 外食の頻度	1	2	3	4	5	6	7
4) 間食	1	2	3	4	5	6	7
5) 生活するうえでお金に困ること	1	2	3	4	5	6	7
e1) 授業時間以外の勉強時間	1	2	3	4	5	6	7
2) 旅行をする頻度	1	2	3	4	5	6	7
3) SNSの利用時間	1	2	3	4	5	6	7
4) 公共交通機関の利用	1	2	3	4	5	6	7
5) 友人・知人との非対面による会話	1	2	3	4	5	6	7
f1) 出前やテイクアウトを利用する頻度	1	2	3	4	5	6	7
2) 仕送り	1	2	3	4	5	6	7
3) 貯金	1	2	3	4	5	6	7
4) 睡眠時間	1	2	3	4	5	6	7
5) Youtubeや動画配信サービスなどを利用する時間	1	2	3	4	5	6	7
g1) 読書する時間	1	2	3	4	5	6	7
2) 健康について意識すること	1	2	3	4	5	6	7
3) 電話やメールなどオンラインでのやり取り	1	2	3	4	5	6	7
4) 1日の食事回数	1	2	3	4	5	6	7
5) パイトをする時間	1	2	3	4	5	6	7
h1) 衣料品を買うこと	1	2	3	4	5	6	7
2) 在宅時間	1	2	3	4	5	6	7
3) ゲームをする時間	1	2	3	4	5	6	7
4) 眠れないこと	1	2	3	4	5	6	7
5) 衛生面に気をつけること	1	2	3	4	5	6	7

図1 質問紙

Ⅲ. 結果

1. 分析対象者

全学年で272人から質問紙が回収され、その詳細は表1に示すとおりである。全体の回収率は85%であるが、調査を実施した日時の欠席者数は不明である。

2. COVID-19流行前後の比較

40の質問項目を<人との交流><金銭面><時間の使い方><食生活><外出>及び<健康面>の6分野に分け、図2と3にそれぞれの回答状況を示した。[e3：SNSの利用時間]が<人との交流>にも<時間の使い方>にも属することが予想されるように、複数の分野に分類できる質問項目もあるが、便宜的に一つの質問項目をある一つの分野に属するものとして分類した。

1) <人との交流>

全体としては[a2：人との交流]が減少したが、特に対面による会話が減少し、逆に非対面での会話が増加した。

2) <金銭面>

[a4：支出(出費)]が減少し、[c4：ネット上での買い物の消費金額]が増加したのみで、[d5：生活する上でお金に困ること]、[f2：仕送り]などには変動は見られなかった。

3) <時間の使い方>

[b1：自分の好きなことに使う時間]が増加しており、同時に、[f5：Youtubeや動画配信サービスなどを利用する時間]、[h3：ゲームをする時間]が大幅に増加した。

4) <食生活>

[a3：1食の量]や[g4：1日の食事回数]に変動はないものの、[d3：外食の頻度]が減少したのに対して、[b5：自炊する頻度]、[d4：間食]、[f1：出前やテイクアウトを利用する頻度]などが増加した。

5) <外出>

[d1：外出頻度]、[e2：旅行をする頻度]、[e4：公共交通機関の利用]が大幅に減少したのに対して、[h2：在宅時間]が大幅に増加した。

6) <健康面>

[a5：体重]や[c2：1日に吸うたばこの量]には変動はみられなかった。しかし、[b3：不規則な生活をしていると思うこと]、[h5：衛生面に気をつけること]などが増加した反面、[c4：運動時間]が減少した。

3. 重相関分析による要因分析

表2に、[a2：人との交流]、[d5：生活する上でお金に困ること]、[b1：自分の好きなことに使う時間]、[b3：不規則な生活をしていると思うこと]の4質問項目の要因分析を行った結果を

表1 分析対象

	人数	性別による内訳			平均	年齢		年齢不明数
		男性	女性	不明		±	SD	
1年	24	12	11	1	20.21	±	1.14	1
2年	54	23	30	1	21.13	±	1.79	0
3年	52	28	24	0	22.47	±	1.69	0
4年	42	26	16	0	23.62	±	1.74	0
5年	50	26	24	0	24.49	±	1.78	1
6年	50	24	26	0	25.04	±	1.57	1
計	272	139	131	2	23.02	±	2.33	3

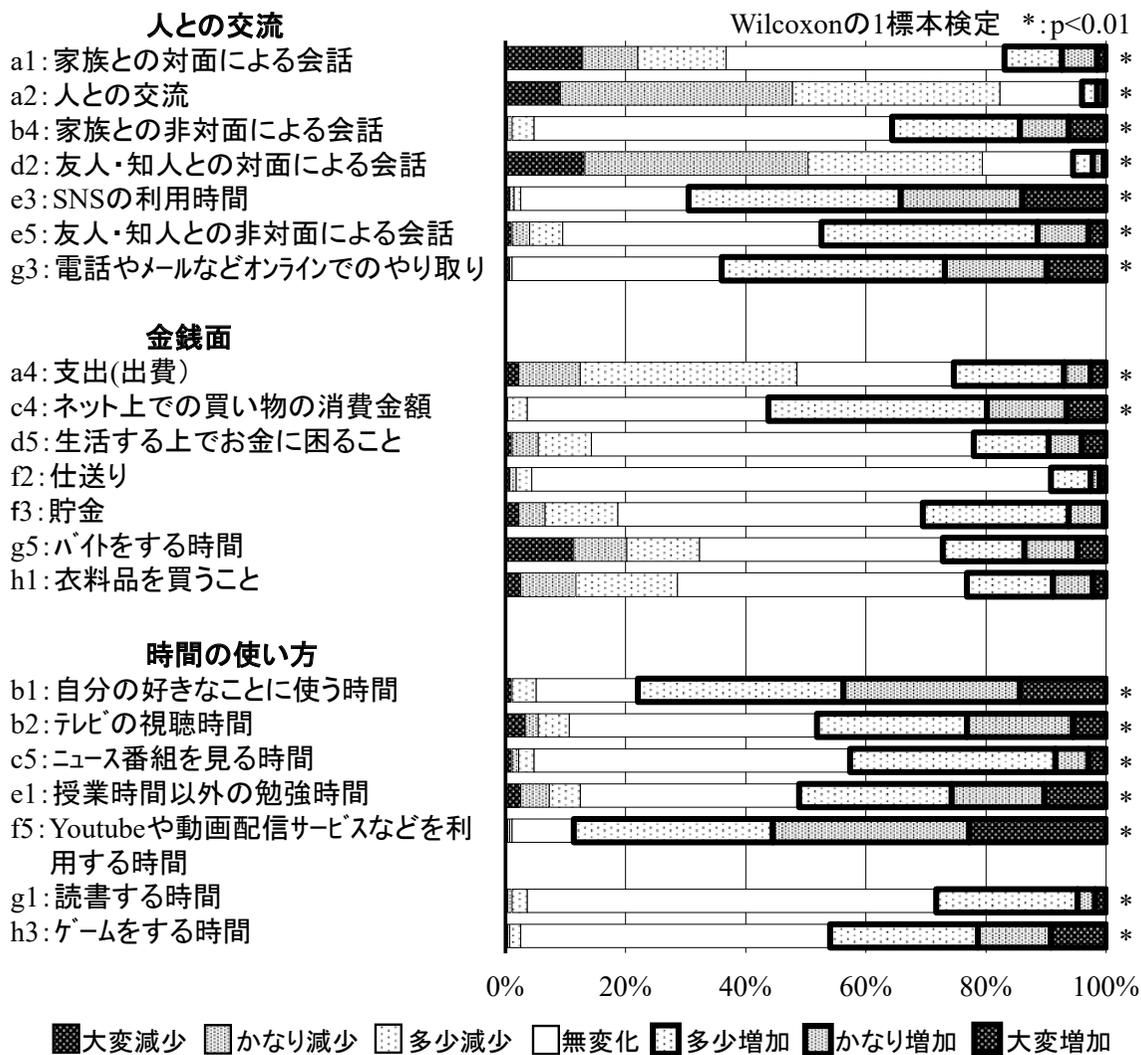


図2 COVID-19流行前後の比較(1)

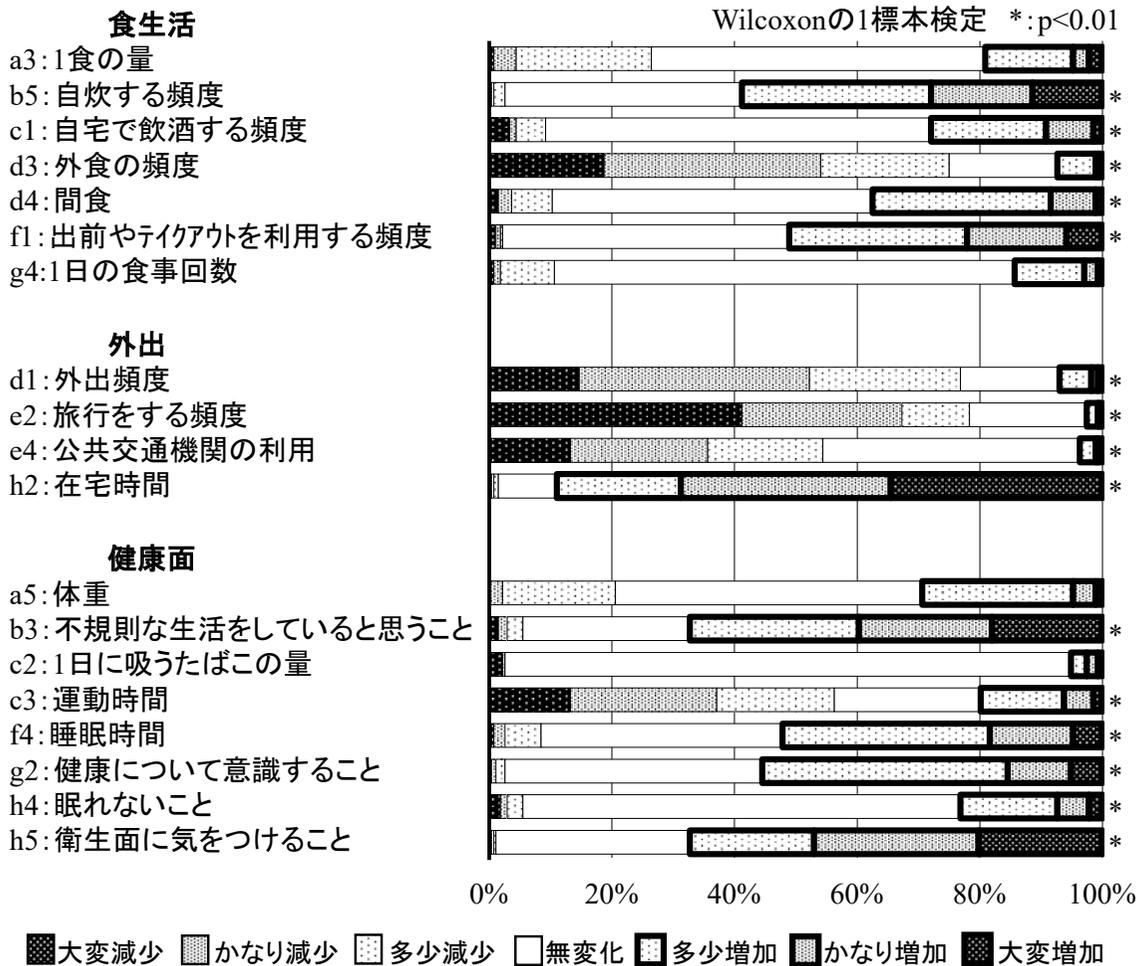


図3 COVID-19流行前後の比較(2)

示す。

1) [a2: 人との交流] の要因分析

図2に示す<人との交流>に含まれる7項目から [a2: 人との交流] を除いた6項目を説明変数とし、分析した。[a2: 人との交流] は、対面の会話の増減により増減を示したが、オンライン等の非対面での交流の増減の影響は認められなかった。

2) [d5: 生活する上でお金に困ること] の要因分析

図2に示す<金銭面>に含まれる7項目から [d5: 生活する上でお金に困ること] を除いた6項目を説明変数とし、分析した。[d5: 生活する上でお金に困ること] の要因としては、[a4: 支出(出費)] と [f3: 貯金] が有意であったが、[f2: 仕送り] は有意ではなかった。

3) [b1: 自分の好きなことに使う時間] の要因分析

図2の<時間の使い方>に含まれる [b1: 自分の好きなことに使う時間] 以外の6項目及び [c3: 運動時間], [f4: 睡眠時間], [e3: SNSの

表2 重相関分析による要因分析

	B	標準誤差	β	t	p
[a2：人との交流]の要因分析					
a1：家族との対面による会話	.138	.051	.138	2.724	<0.01
b4：家族との非対面による会話	-.037	.056	-.035	-.669	-
d2：友人・知人との対面による会話	.558	.050	.564	11.142	<0.01
e3：SNSの利用時間	-.069	.053	-.070	-1.313	-
e5：友人・知人との非対面による会話	.024	.054	.024	.445	-
g3：電話やメールなどオンラインでのやり取り	-.040	.055	-.040	-.718	-
[d5：生活する上でお金に困ること]の要因分析					
a4：支出(出費)	.225	.052	.252	4.303	<0.01
c4：ネット上での買い物の消費金額	.000	.052	.000	-.004	-
f2：仕送り	.119	.081	.083	1.467	-
f3：貯金	-.294	.056	-.316	-5.237	<0.01
g5：バイトをする時間	-.007	.054	-.008	-.132	-
h1：衣料品を買うこと	-.017	.053	-.019	-.327	-
[b1：自分の好きなことに使う時間]の要因分析					
b2：テレビの視聴時間	.125	.060	.124	2.101	-
c3：運動時間	.027	.053	.027	.502	-
c5：ニュース番組を見る時間	.106	.063	.099	1.680	-
e1：授業時間以外の勉強時間	-.079	.054	-.079	-1.458	-
e3：SNSの利用時間	.116	.061	.116	1.923	-
f4：睡眠時間	.114	.057	.112	1.998	-
f5：Youtubeや動画配信サービスなどを利用する時間	.265	.061	.264	4.311	<0.01
g1：読書する時間	.047	.064	.040	.728	-
h3：ゲームをする時間	.181	.058	.173	3.125	<0.01
[b3：不規則な生活をしていると思うこと]の要因分析					
a3：1食の量	-.101	.066	-.095	-1.544	-
b5：自炊する頻度	.083	.063	.081	1.321	-
c1：自宅で飲酒する頻度	.109	.065	.097	1.680	-
d3：外食の頻度	-.026	.060	-.026	-.434	-
d4：間食	.286	.064	.269	4.474	<0.01
f1：出前やテイクアウトを利用する頻度	.157	.061	.151	2.593	-
f4：睡眠時間	.059	.061	.057	.959	-
g4：1日の食事回数	-.011	.079	-.009	-.139	-

利用時間] の計9項目を説明変数とし、分析した。[f5: Youtube や動画配信サービスなどを利用する時間] と [h3: ゲームをする時間] が有意な要因であった。

4) [b3: 不規則な生活をしていると思うこと] の要因分析

[f4: 睡眠時間] と図3に示す<食生活>に関する7項目を説明変数とし、分析した。その結果、[b3: 不規則な生活をしていると思うこと] の増減は [d4: 間食] 回数の増減で変化することが示されたが、[b5: 自炊する頻度] の増減の影響は示されなかった。

4. Spearman の順位相関係数による関連性の検討

[d1: 外出頻度] 及び [g2: 健康について意識すること] と他の質問項目との Spearman の順位相関係数を求め、そのうち相関係数が0.3以上のもののみを表3に示した。

[d1: 外出頻度] と最も大きな正の相関を示したものは [d2: 友人・知人との対面による会話] で、相関係数は0.620であった。同様に [a2: 人との交流], [d3: 外食の頻度] や [e2: 旅行をする頻度] も大きな正の相関を示した。

[g2: 健康について意識すること] と0.3以上の相関係数を示したのは、[h5: 衛生面に気をつけ

ること] のみであった。

IV. 考察

1. 分析対象者

1年生で回収率が低かったのは、未成年では保護者の同意が必要となり、保護者の同意が得られなかった、もしくは、保護者の同意を得るのを忘れた学生が多かったためと考えられる。同様に、4年生で回収率が低かったのは、試験時に回収したため、試験による時間的制約によるものと思われる。

2. COVID-19流行前後の比較

1) <人との交流>

<人との交流>については、友人や家族との対面でのやりとりが減少し、オンラインなどの非対面でのやりとり、SNSの利用時間が増加した。オンライン授業により友人と会う機会が減少し、また、COVID-19の感染をさけるに家族と会う機会も減少したのではないかと想像された。対面で会うことが減ったため、Zoom 飲みや、直接会わなくてもやりとりできる LINE や Twitter, インスタグラムなどの SNS を利用する機会が増加したと思われる。

しかしながら、本調査対象においては、これらのオンラインによる交流が増加したとしても、そ

表3 [d1: 外出頻度] 及び [g2: 健康について意識すること] と他の質問項目との Spearman の相関係数

相関係数0.3以上のもの	
質問項目	相関係数
d1: 外出頻度	
a2: 人との交流	0.476
d2: 友人・知人との対面による会話	0.620
d3: 外食の頻度	0.595
e2: 旅行をする頻度	0.429
e4: 公共交通機関の利用	0.376
h2: 在宅時間	-0.379
g2: 健康について意識すること	
h5: 衛生面に気をつけること	0.420

相関係数の有意性の検定 全て $p < 0.001$

れによって全体として<人との交流>が増加したと認識されることはなかった。<人との交流>はあくまで対面による交流に意味を感じているものと思われる。仮想空間における<人との交流>が進化しつつあるが、対面の<人との交流>と同等のものになるにはまだ時間が必要であろう。

2) <金銭面>

本調査の対象となった学生はCOVID-19流行により金銭的に困窮したとは思われなかった。なぜなら、ネット上での買い物の消費金額が増加したものの、支出は明らかに減少し、全体として生活する上でお金に困ることの増加が認められなかったからである。6年制の歯学部歯学科に子どもを通わせることが可能な世帯からの学生であり、保護者の収入に対するCOVID-19流行は大きくなかったものと予想される。また、彼らのアルバイトの職種は、COVID-19流行の影響の大きい飲食店や服飾関係ではなく、家庭教師や塾講師のような教育関係が多かった可能性も考えられる。一方、全国大学生協連が大学生を対象に実施した調査では、回答者のうち8.2%の学生がアルバイト探しに苦労しているという結果が出ており⁴⁾、金銭的補助を適切な学生に配分するために配慮が必要であると考えられた。

また、学生数に占める中途退学者数の割合は、COVID-19流行以前である2019年度に比べて2020年度の方がやや減少しており、休学者数は、経済的困窮や病気・けが・死亡などを理由としたものについては大きな変化は無いことが報告されている⁵⁾。国レベルで、または、各大学レベルでメンタルヘルスの悪化や経済的困窮等による退学・休学を防ぐために様々な工夫が行われ^{2,6)}、その効果が発揮されているのではないかと考えられる。

金銭的困窮の要因分析では、当然のこととして支出の増減が困窮の大きな要因となっていた。また、先の見えないコロナ禍の最中にあるのは、現状よりも今後のことを考えるため、貯金の増減も要因となったものと思われる。一方、仕送りの増減が困窮に影響しなかったのは、調査対象の学生では仕送りの増減があったものがわずかであったためであろう。

3) <時間の使い方>

本研究では、COVID-19流行下の生活の中でテレビやスマートフォン、PCなどの画面を見る時間が増加したという結果が得られた。細川(2021)⁷⁾は、学生を対象に、また、山田・信定ら(2020)⁸⁾は、20代から70代を対象に行った調査を行い、「テレビ視聴」、「インターネット動画視聴」が高頻度になったことを報告している。他大学の学生や社会人と同様、広島大学歯学部歯学科の学生においても画面を見る時間が増加したと考えられた。

自分の好きなことに使う時間が増えた場合に何に使用する時間が増えたかについて検討した。内閣府による2021年9月から10月からの調査⁹⁾では、一般の20歳ではコロナ禍、教育・学習(新しい分野、技術、語学)やビジネス関係の勉強(資格取得、スキルアップ、転職情報収集等)に新たに組み込んだ者は27.7%見られた。本調査においても、授業以外の勉強時間は増加しているが、その内容については不明である。しかし、自分の好きなことに使う時間の増加の要因として、Youtubeや動画配信サービスなどを利用する時間やゲームをする時間が増加したことは明らかである。一方、授業時間以外の学習時間は自分の好きなことに使う時間としては認識されていない。通常の大学の講義では、数回の講義の終了時に試験が課せられるが、オンライン授業では、終了時の試験だけでなく毎回の授業後にレポートないしは小テストがあり、このようなレポートや小テストを授業時間以外の学習時間として捉え、好ましいものとしては認識していなかったことも考えられる。

4) <食生活>

<食生活>においては、外食頻度が減少したが、自炊頻度やテイクアウトの利用頻度が増加していた。飲食店の営業時間短縮や休業、密を避けるために外出や外食頻度が減少したのに対して、自宅で食事をするのがCOVID-19流行以前より増え、自炊をする機会やテイクアウトを利用する機会が増加したと思われる。

不規則な生活の要因としては、間食回数が増えられた。コロナ禍、食事回数そのものの増減は見

られないものの、自宅にいる時間が増えるという現象を取ってしまうという現象があり、不規則な食生活と捕らえたのであろう。

5) <外出>

<外出>については、外出頻度や旅行の頻度、公共交通機関の利用が激減し、その代わりに在宅時間が大幅に増加した。財務省の調査でも、平常時と比べ、外出自粛のため、自動車やサービス業（宿泊・飲食、運輸等）ではほぼ100%の企業が業績悪化を訴え、巣ごもり需要のため、スーパーや家電量販店等で75%以上の企業で業績が好転したと答えており¹⁰⁾、調査対象とした学生の生活の変化を裏付けている。

学生にとって、外出することの要因として最も大きいものは、今回の調査項目にはないが通学と日用品の買い物であろう。外食や旅行も、当然、外出の大きな要因となる。しかし、本調査で注目したいのは、外出と人との交流の結びつきである。人と会うために外出する場面があるのも事実であり、大学などへ外出すれば当然友人と会話をする機会も増えることになる。このように、外出と人との交流が切っても切れない関係にあることが示された。

6) <健康面>

<健康面>については運動時間が減少し、睡眠時間が増加したものの眠れないことも増え、全体として不規則な生活をしていると思う割合が増加するという結果が得られた。オンライン授業や感染予防対策のために在宅時間が増えた結果、睡眠時間が増加したとしても、外出や運動をする機会が減少したため、寝付けないことが増えたと思われる。また、オンライン授業はリアルタイムで行われたものは少なく、オンデマンド配信のものが多かった。早稲田大学による調査¹¹⁾では、10代から30代の若者においてCOVID-19による外出自粛中の平日の寝る時間、起きる時間が遅くなり、生活リズムが夜型化したことが報告されている。本研究では起床・睡眠時間のコロナ禍における変化に対する質問を行っていないが、授業がオンデマンド配信であったため早朝の起床が不要となり、不規則な生活になったのではないかと推測さ

れた。

通常、健康のためにすることと言えば、栄養バランスの取れた食事、適度な運動、十分な睡眠をとることがあげられるだろう。しかし、コロナ禍において、対象の学生にとり、健康とは、まず衛生面に気をつけることであり、食事・運動・睡眠が省みられない状態になっていたことが伺えた。

V. おわりに

以上のことから、コロナ禍における大学生の考え方として以下の点が明らかになった。

- 人との交流は、対面によるものが基本であり、オンライン等の非対面の交流は対面での交流を補うところまでは進化していないことが示唆された。そのため、外出は対面による会話を行うために必要なものと考えられた。
- 自分の好きなことに使う時間が増えたとしても、それはゲームをしたり、Youtubeや動画配信サービスを利用したりする時間であり、勉強は好きなこととして認識されていなかった。
- 健康とは衛生面に気をつけることであり、食事・運動・睡眠が省みられない状態になっていた。

文 献

- 1) 広島県. 新型コロナウイルス感染症に対する情報.
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/stop-infection-hiroshima.html>
- 2) 広島大学. 学生生活のサポート コロナウイルスの影響による家計急変への経済支援.
https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/post_74.html
- 3) 立石遥, 笹原妃佐子, 二川浩樹: 新型コロナウイルス流行前後での大学生の考え方や生活の変化について. Campus Health, 59: 329-331, 2022.
- 4) 全国大学生協連. 届けよう! コロナ禍の大学生活アンケート集計結果報告.
https://www.univcoop.or.jp/covid19/pdf/covid_enq_2108_02.pdf

- 5) 文部科学省. 新型コロナウイルスの影響を受けた学生への支援状況等に関する調査. https://www.nii.ac.jp/event/upload/20211008-06_Suzuki.pdf
- 6) 広島大学. 学生生活のサポート 広島大学以外で実施されている経済支援. https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/post_72.html
- 7) 細川裕子: 女子短期大学生における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する意識と自粛期間中の生活スタイルの変化. 目白大学短期大学部研究紀要, 57: 31-39, 2021.
- 8) 山田崇史, 信定佑芽: 緊急事態宣言前・中・後における外出行動変化と健康に関する意識 新型コロナウイルス感染症拡大時における一都三県 WEB アンケート調査に基づく分析. 日本建築学会計画系論文集, 86: 2147-2157, 2021
- 9) 内閣府 第4回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査 https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/covid/pdf/result4_covid.pdf
- 10) 財務省. 新型コロナウイルス感染症による企業活動への影響とその対応. https://www.mof.go.jp/about_mof/zaimu/kannai/202002/singatakoronavirus098.pdf
- 11) 早稲田大学. コロナ禍の外出自粛により生活リズムが変化～3万人規模の調査成果～. <https://www.waseda.jp/top/news/70080>